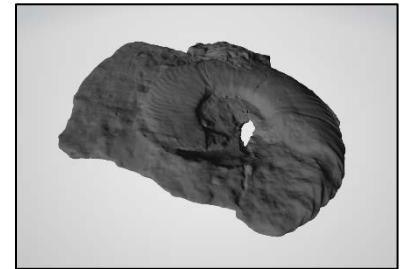


【事業実績】三陸希望遺産デジタル・アーカイブ構築プロジェクト

1. デジタル・アーカイブ構築活動

(1) デジタルデータ作成

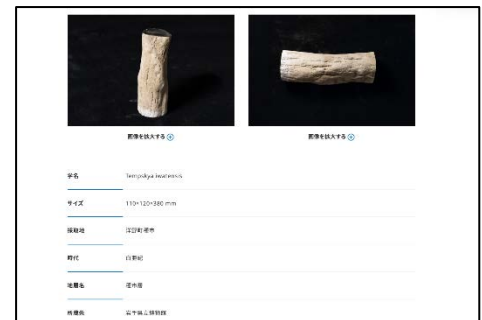
岩手県立博物館、大船渡市立博物館、久慈琥珀博物館、宮古市崎山貝塚縄文の森ミュージアム、陸前高田市立博物館、早稲田大学国際学術院国際教養学部平山廉研究室の計6機関が分有する三陸産古生物標本の中から、タイプ標本や示準化石を中心に精選した112件、178点について、2D撮像と3Dデータ作成を行った。次項に示すデジタル・アーカイブの構築のみならず、ビューワーを用いた標本の随意観察、容易な簡易レプリカの出力といった活用のみならず、資料情報の保全に資することができた。



作成した3Dデータ例

(2) デジタル・アーカイブ構築

デジタルデータを作成した全112件の標本を搭載したデジタル・アーカイブを構築し、公開を開始した。今後、資料のデジタル化の進展に伴い、資料を追加搭載できる仕様としたほか、今後は画像やファイルの掲示も可能なお知らせ機能を活用し、コンテンツについて理解を深めるワークシートのPDFデータを掲載することで、様々な利用者が能動的に閲覧できるアーカイブとして整備を進めることを予定している。



デジタル・アーカイブ URL : <https://iwapmus.jp/sanrikuda/>

デジタル・アーカイブ中、個別資料解説画面例

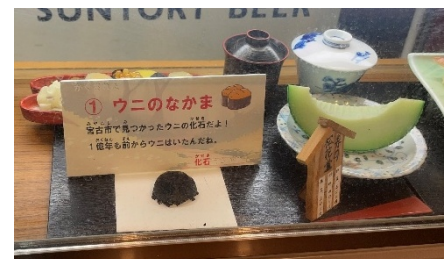
2. デジタルデータ活用活動

(1) 地域活性化イベント

2024年10月12日～13日及び11月3日～4日の4日間にわたり、中核館が所在する岩手県盛岡市松園地区を舞台に、作成したデジタルデータを活用した地域活性化イベントを開催した。

10月12日～13日はプレイベントとして中核館敷地内に、本実施となる11月3日～4日は松園地区に所在する公共施設や店舗などにデジタルデータを出力した簡易レプリカを配置し、参加者は地図を頼りにレプリカを探しつつ、用意されたワークシートに挑戦するという趣向のものであり、計1000名を超える参加者から満足度（アンケートで「満足」「やや満足」と回答した方の割合）100%という極めて高い評価を得ることができた。本プロジェクトが主題としている古生物（化石）というコンテンツの訴求力を改めて実感するところとなった。

また、参加者のみならず、実施に当たり協力をいただいた自治会、施設、店舗等からも次年度以降の継続実施を望む声が寄せられており、今後地域に開かれた博物館づくりの一層の進展が期待される。



まち歩きイベントにおけるレプリカ配置例



古生物標本レプリカに親しむ参加者の様子

【参加者の感想】

- ・はじめて松園を歩きましたが、自然もゆたかで、こんなところがあったんだと新しい発見になりました。今度またゆっくり公園やお店を回ってみたいです。
- ・子どもたちが本当に恐竜や化石が大好きで大興奮でした。こうしたイベントをぜひ続けてほしいです。

(2) 貸し出し用パッケージの整備

イベントで使用した簡易レプリカ、解説パネル、ワークシートをベースとして、実施の過程で指摘のあった点（未就学児には理解しづらい表現など）を加味しつつ、レプリカ・パネル各 15 点とワークシートデータからなる貸し出し用パッケージを整備した。

今後このパッケージは営利や公序良俗に反する趣旨のものでない限り、基本的に求めに応じて無償で貸与することとしており、地域や学校行事、三陸ジオパークのイベントなどでの活用が期待される。



貸し出し用レプリカ・パネル例

3. ノウハウの共有に関する活動

(1) 研修会の開催

① 日本博物館協会東北支部総会と連動した学芸員向け研修会

2024 年 10 月 25 日、博物館等職員を対象にデジタルデータの活用に関するノウハウ共有を目的とする研修会を実施した。いわてデジタルエンジニア育成センターから講師をお招きし、スマートフォンやタブレットで利用できる無料アプリを用いた簡便な 3D データ作成法や、3D プリンタの使用法・機種毎の特性について実際の作業を織り交ぜつつ解説いただいた。日本博物館協会東北支部総会関連行事の一つとして、開催し、岩手県内外から約 40 名の参加を得た。

② 内製化に向けた実行委員会構成機関職員向け研修会

2024 年 11 月 27 日、将来的な内製化を見据え、専門的な機材・ソフトを用いた 3D データ作成法について、実行委員会構成機関職員内でノウハウを共有するための研修会を実施した。使用可能な機材に限りがあるため、実習参加者は各構成機関職員 1 名程度に限定せざるを得なかったが、マニュアルを用意することで当日不参加だった構成機関職員にもノウハウの共有をはかった。



(上) ①学芸員向け研修会の模様
(下) 無料アプリで作成した 3D データ例

【参加者の感想】

- ・無料アプリでここまでできるとは！さっそく活用してみます。(①参加者)
- ・機材、ソフトの用意や時間の確保などハードルは低くないが、自前でデジタル化をするためには何が必要かが分かっただけでも一歩前進できたように感じる。(②参加者)

(2) 教育普及事業の実施

本事業を通して作成したデジタルデータを活用した学校向け教育普及活動を、県立高校・同特別支援学校を対象に行った（計 3 回実施、116 名参加）。授業は実施校の授業担当者と中核館学芸員がチーム・ティーチングで行い、簡易レプリカや 3D データを教材として使用するのみならず、博物館資料を 3D データ化する意義や方法についても周知する機会とした。部活動を通した博物館資料デジタル化への参画、ノーマライゼーションのツールとしての洗練などを目指し、中～長期的連携に向けた協議を進めている。



県立高校における授業の模様

【授業実施後の教員からのフィードバック】

- ・独力での教材（標本）収集には限界があるため、この先教員のニーズに合わせて博物館資料のレプリカや 3D データを気軽に利用できるようになると授業の質が格段に向上すると思われる。(高校担当教諭)
- ・3D データやレプリカはこれまでほとんど接することがなかったため、生徒とともに大人の方も興奮してしまいました。生徒たちが自ら操作し、3D を色々な角度から観察できる機会を作りたいです。(特別支援学校担当教諭)